

第10回 経営協議会議事要旨

日 時	場 所	欠 席 者	陪 席 者
平成18年6月19日(月)14時00分～	事務局 4階大会議室	学外委員 1名	常勤監事

(はじめに)

学長から、学外委員がフランス政府から授与される「レジオン・ドヌール勲章シュバリエ」を受賞したことについて、祝辞が述べられた。

次いで、陪席の常勤監事の紹介があり、同監事から挨拶があった。

1. 報告事項

(1) 科学研究費補助金等の外部資金獲得状況について

学術担当理事から、報告資料1に基づき、平成18年度における科学研究費補助金の採択状況及び共同研究費等の主な外部資金の獲得状況について報告があった。

なお、学外委員から、以下の意見が出された。

科学技術・学術予算については、第3期科学技術基本計画の数値目標によると、来年度以降増額が見込まれると思うので、人文社会系の分野においても、積極的に外部資金の獲得に向けた戦略を立てる等、努力してほしい。

2. 審議事項

(1) 平成17事業年度に係る業務の実績に関する報告書について

学長から、国立大学法人法第35条の規定により毎年6月末までに国立大学法人評価委員会に提出し評価を受けることとされている平成17事業年度に係る業務の実績に関する報告書について、6月8日開催の役員会において同報告書(案)を作成したので審議願いたい旨発言があった。

次いで、連携・評価担当理事から、審議資料1-1、1-2及び参考資料に基づき、同報告書(案)の概要について説明があった。

次いで、病院長から、附属病院に係る事項について補足説明があった。

審議の結果、原案を了承し、今後、軽微な修正等を行う場合の取扱いについては、学長に一任することとした。

なお、学外委員から、以下の意見が出された。

学長裁量経費を活用した萌芽研究等への資金投入など戦略的予算配分は基盤的な研究能力を育成する上でも非常に重要であり、今後もこれを継続することが競争的資金を確保する戦略の推進につながると思うので、今後も努力してほしい。

地域の医療機関との連携を更に推進し、在院日数を減らすことで中核的病院として先端医療技術を活かした手術件数の増加を図ることができ、附属病院の収入増に結びつくのではないかと。

大学にとって最大の使命である教育研究の高度化に資するよう、重点的な人員の配置、あるいは研究の高度化を推進することにより、大学全入時代であっても個性輝く大学として存在感を発揮できる戦略を今後も進めてほしい。

(2) 平成17年度年次決算(財務諸表等)について

学長から、国立大学法人法第35条の規定により毎年6月末までに文部科学大臣に提出し承認を受けることとされている年次決算(財務諸表等)について、審議願いたい旨発言があった。

次いで、総務・財務担当理事から、審議資料2-1～2-3及び参考資料に基づき、平成17事業年度の財務諸表(案)、事業報告書(案)及び決算報告書(案)について説明があった。

審議の結果、原案を承認し、文部科学省へ提出することとした。

なお、今後、軽微な修正等を行う場合の取扱いについては、学長に一任することとした。

(3) 平成19年度概算要求について

学長から、平成19年度の概算要求にあたり、関係部局への要求事項に係るヒアリング、教育研究に係る事項について教育研究評議会における意見聴取、並びに文部科学省への個別の事前相談を経て5月25日開催の役員会において平成19年度概算要求事項(案)を策定したので審議願いたい旨発言があった。

次いで、総務・財務担当理事から、審議資料3-1及び3-2に基づき、特別教育研究経費及び施設整備費の要求事項について説明があり、審議の結果、原案を了承した。

なお、今後、軽微な修正等を行う場合の取扱いについては、学長に一任することとした。

また、学外委員から、以下の意見が出された。

工学部の西側用地については香川県土地開発公社が所有しているが、今後も県と大学が連携を図り、同用地の早期取得について引き続き努力してほしい。

3. その他

(1) 香川大学の将来構想について

学長から、現在、香川大学が検討を重ねている将来構想に関して、学外委員の方々から意見をいただきたい旨発言があり、これまでの検討状況等について説明があった。

学外委員から、以下の意見が出された。

2つの大学が統合した意義を考慮すると、各々の学問分野の融合を図り、そのスケールメリットを活かした教育・研究を推進することが香川大学として取り組むべき課題ではないか。

先端学術分野の融合研究が進む中、医工分野、あるいはライフサイエンス分野等の総合的な研究の推進が必要であり、更に学部横断的、学際的な研究を推進してほしい。

人材育成について、大学院での専門的な職業人としての人材育成、あるいは学部教育で社会に送り出す人材育成等、どのような人材育成を重視するのか、棲み分けを明確にする必要があると思う。どのような分野でニーズがあるかを踏まえた上で人材育成に努めてほしい。

大学の役割として大学の機能分化が必要であるという中教審答申の指摘も踏まえ、香川大学として一番ふさわしい大学としての在り方を更に学内で検討してほしい。

大学によっては公募制と任期制をうまく活用し優秀な人材を確保することや、給与体系については年俸制の導入の検討がなされている。

学部の研究体制と教育体制が一致しなくても、弾力的に教員組織の一元化を図ることで教員を活用する教育体制を構築することを検討する必要があるのではないかと。

研究の特化は必要だが、学部の教育体制と考え方を整理しておくことが大事であり、教員の意見の集約が非常に大事である。

これから大学が選ばれる時代に、卒業生を巻き込み、地域に開かれた大学となるよう、更には国際交流のみならず国際協力も展望して、世界に開かれた強く頼もしい大学となしてほしい。

香川大学の教育あるいは研究の強い部分の何を香川大学の魅力とするのか、今後検討し、ビジョンとしてほしい。

将来構想に基づき強靱な体制を組み、香川県だけの大学ではない、もっと幅広い大学作りを目指し、また、地域社会と緊密な関係をもち、四国地域とオープンな形での相互の協力体制や地域に対してリーダーシップ的な考え方を打ち出してほしい。

閉会 16時15分